

なの花薬局 北大前店

地域薬局は、ゲートキーパー。
専門性を深化させ、病院と患者さまをつなぐ架け橋に。



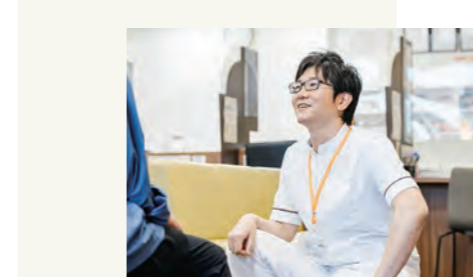
あなたに
話して
よかった
不安を和らげ、
前向きな気持ちに
なれるように。

外来がん患者さまの体調変化を
細やかに聞き取る。受診と受診の間を
支えるのは、薬局薬剤師だ。

北海道札幌市。臨床研究中核病院として先進的な医療を提供する全国屈指の医療施設の一つ、北海道大学病院。その正門の目の前に立つのが、なの花薬局北大前店だ。来局患者さまの約4割が、がん患者である。他にも道内各地から北大病院でしか受けられない治療を求める患者さまが大半を占めており、重篤かつ特殊な疾患の処方内容に接するため、高度な知識と経験が求められる。がん領域、循環器領域など薬剤師はそれぞれが得意分野を持ち、難しい局面も互いに知識を補い合いながら対応する。そこには、一つの想いがある。「薬局を出たら患者さまは日常生活に戻る。地域薬局は生活の近くで支えるゲートキーパーだ」。宮川薬局長の専門性を高めた薬局づくりが動き出している。



1本の電話が、患者さまを守る
体調変化や不安を丁寧に



外来でがん化学療法を受ける患者さまが増える昨今。抗がん剤治療は中断しないことが重要であり、副作用の発現をコントロールすることが薬剤師の大きな役割の一つとなる。吐き気、下痢、しびれなど自覚症状のあるものは患者さまへの問診を丁寧に行い、支持療法薬の使用状況などを医療機関に共有する。特に、次の受診までの日常生活における体調変化の聞き取りが重要だ。1本の電話やLINEが命を守ることに繋がる。

医療機関と薬局、双方が
使いやすいフォーマット作り



トレーシングレポートは、独自のフォーマットを作成。患者さまからヒアリングした服薬状況や副作用の有無は、抗がん剤の減量や支持療法薬の増減・変更を活かされることもあるため、医師が治療計画に必要な薬剤情報を端的に把握できるように工夫している。また、誰もが使いやすいフォーマットにすることで、がん領域を専門としない薬剤師も一定のレベルが身につくようになり、薬学ケアの質の向上に取り組んでいる。

地域の核となる薬局として、
地方へつなぐ



急性期治療後、症状が落ち着いた患者さまは居住地の医療機関に戻るケースも多い。地域薬局として患者さまの近くでサポートしたいという想いから、北大前店では、各地のなの花薬局や他薬局と連携するなど、地域の核となる薬局としての機能も果たす。地元に戻る患者さまからは「病院から少し離れても、なの花薬局にしたい」と嬉しい言葉をいただくことも。各地のレベル向上を図るため、オンラインによる「がん勉強会」も実施。



専門性を磨く。
いつもの日常生活を
送る喜びを
届けたいから。

なの花薬局 北大前店 薬局長
宮川 文史 Takeshi Miyakawa
2013年入社

私の就職活動当時は、薬剤師の職能拡大が推進され始めた頃で、薬局業界の現状を変えたいという気持ちと、なの花薬局の「地域薬局」という考え方が好きで、この会社で活躍してみたいと思志望しました。入社後は札幌、小樽、千歳などで5店舗を経験、4年目に薬局長となり、現在の北大前店は薬局長として2店舗目になります。北海道大学病院の門前である北大前店は、高い専門性と実経験が求められる店舗。患者さまから「この薬局なら安心できる。この薬剤師から薬の説明を聞きたい」と思っていただけの薬局づくりを目指しています。店舗には外来がん治療認定薬剤師の資格を持つ薬剤師もいて、薬局内で独自に症例

検討を行ったり、社内では「がん勉強会」を実施し、どの店舗の薬剤師も一定の知識が得られるよう勉強の機会を設けています。また、患者さまには待合中の聞き取りや、日常生活における体調変化や副作用の有無を細やかにフォローしています。患者さまは様々な不安を抱えていらっしゃいますので、生活環境や心情に寄り添い、病気だけでなく“人を診る”ことを大切にしています。そして、専門性を磨くことで生まれる自信を込めた想いが、患者さまの安心と変わらぬ日常生活を過ごせる喜びにつながると信じています。今後も医療機関との連携や地域の核となる薬局として薬局薬剤師の職能を広げる取り組みにも力を入れていきたいです。



1年目・なの花薬局札幌北3条店
新人研修後、札幌市中心部にある札幌北3条店に配属。良い先輩がたくさんいる明るく楽しい店舗でした。写真は、当時、自己紹介用に撮ったもの。



2～3年目・フォローアップ研修
2年目は南小樽店、3年目は千歳店に配属。小樽では高齢者や地域に根ざした薬局づくりを、医療モール型の千歳店では患者さまのかかわり方や薬局運営について学びました。



4～5年目・在宅委員会に加入
薬局長に就任し、地域薬局を自分で作る立場に。医師や多職種、地域とかかわりながら在宅医療への取り組みを開始。在宅委員会に加入し、最前線で働くメンバーから学ぶことができました。



6～7年目・がん領域の専門薬剤師を目指す
北大前店へ異動。がんや高度医療に対する知識不足を痛感し、勉強を開始。自己研鑽のため、社内外の勉強会などに参加、がん領域の専門薬剤師を目指す。



8～9年目・病院研修
病院との連携を強化。循環器カンファレンスなどへの参加から興味を持ち、「心不全療養指導士」を取得。さらに「外来がん治療専門薬剤師」を目指し病院研修へ参加。



10年目・専門性を高める
病院研修を経て、さらなるがん領域への専門性を高めている最中です。また、店舗では「専門医療機関連携薬局」を目指し、独自の取り組みも進めています。

TOPICS



会社のキャンプサークル!
北海道は雄大な景観が魅力のキャンプ王国。個人的には秋キャンプが好きですね。近頃は後輩が準備をしてくれるので、もっぱら「飲み係」です!



身近な「地域薬局」
だからこそ、
管理栄養士の専門性を
生かして貢献したい。

なの花薬局 北大前店 管理栄養士
菅原 由季 Yuuki Sugawara
2018年入社

食事の悩みや不安を抱えていても、どこに相談してよいのかわからず、意思表示ができる場所は少ないと感じています。「地域薬局」であるなの花薬局は、患者さまや地域の皆様に身近で、健康についての不安や疑問を気軽に相談できる場所。皆様の健康的な生活に貢献できるよう、一人ひとりに寄り添った栄養指導を心掛けています。血糖値や中性脂肪の検査数値をはじめ、減量、食事の栄養バランスなど日頃気になっている事を、幅広い層の方に相談いただけるのは嬉しいです。また、薬剤師と連携し、食事療法の必要な患者さまには、個々に合わせた栄養指導を行っています。患者さまと会話を重ね、服用しているお薬を

考慮しながら栄養指導を行った結果、検査数値が改善したり、お薬を減らすことができた時は達成感を感じます。「食」は命を支えるものであり、食べる楽しみが患者さまの気持ちを前向きにします。調理が難しい場合は市販品を上手に組み合わせるなど、患者さまの生活環境を理解し、取り組めることを一緒に考えて提案しています。私たち管理栄養士が考案したレシピは、栄養相談で提供したり、店舗内外で情報発信していますが、「今度やってみるね」と言っただけだと嬉しいです。薬局管理栄養士の存在を多くの人に知ってもらい、なの花薬局が地域の健康ステーションになるよう活動していきたいです。



店舗での栄養相談

担当エリアの店舗を巡回し、予約に応じて栄養相談・栄養指導を行います。外出や来局が難しい方には電話やメールなど対面以外の需要にも対応。検査数値の確認や食事療法の説明など個々に合わせたアドバイスをします。



OTC・健康食品販売の促進

健康食品やサプリメント、治療用特殊食品といった商品の販売促進や、食生活改善指導に健康食品等を活用したアレンジレシピなどを紹介。また、社内のOTC委員会活動で商品知識を高め、店舗へ商品の取扱や陳列施策を提案します。



薬剤師との連携

店舗内での栄養相談内容の申し送りや、薬剤師が行う医師へのトレーニングレポート提出の際、必要に応じて栄養指導報告書を作成します。医師からの指示に基づき指導した場合も、栄養指導報告書を医師に提出します。



資料作成・配布物の制作

栄養相談で使用する資料を作成したり、未病・予防、健康増進に役立つ店舗配布ツールなどを制作。見る人の興味を喚起し、有益な情報が得られる効果的なツールになるよう各自工夫を施しています。



未病・予防に向けたレシピ作成・試作

減塩、カロリーダウンなどカテゴリ別にオリジナルの健康レシピを開発しています。栄養相談時にメニューを提案したり、なの花北海道ではレシぴリーフレット「なの花健康ごはん」の作成やクックパッドにレシピを投稿しています。



健康イベントでのアドバイス・栄養相談

薬剤師や自治体と連携し、地域住民の未病・予防・健康サポートを目的とした「健康フェア・健康相談会」を開催しています。健康測定機器を活用したアドバイスや栄養相談、健康食品の紹介のほか、食や栄養に関する講話なども行います。